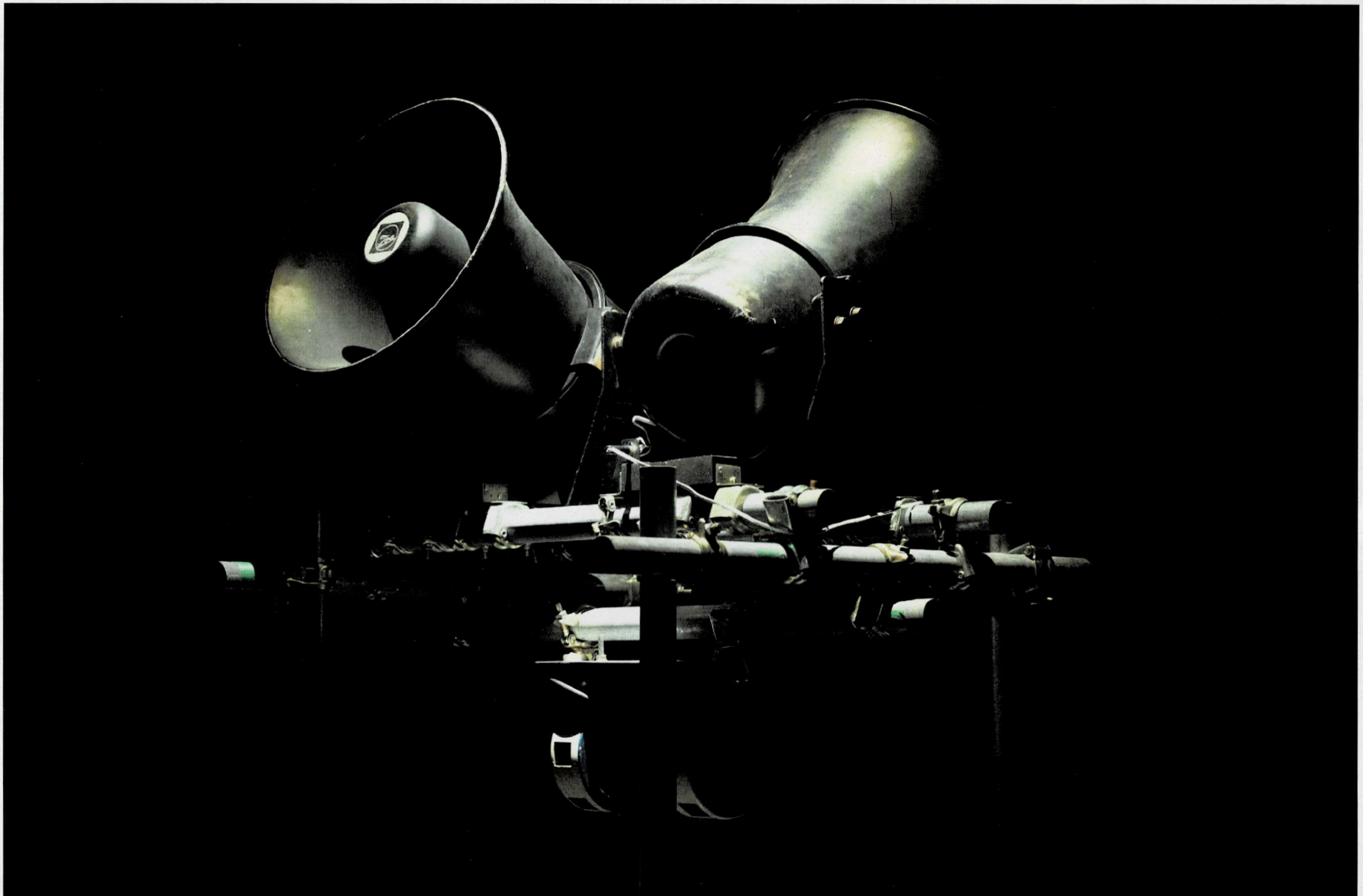
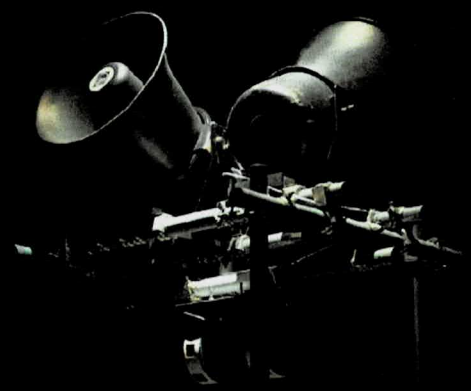
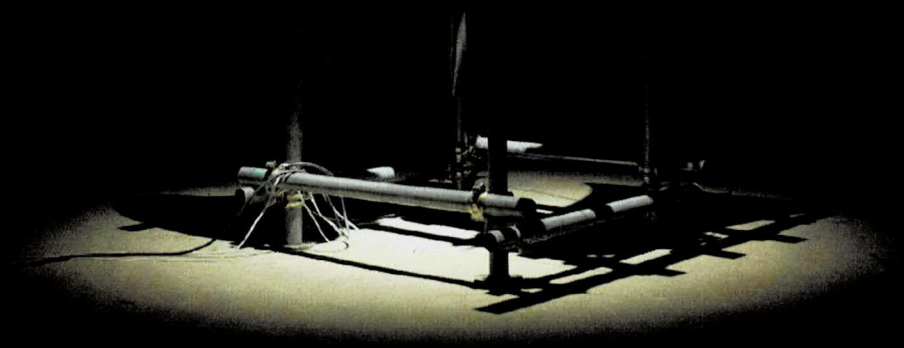


防災無線通信 - ホーンスピーカーとサイレンのためのオペラ (2023 - 2024)





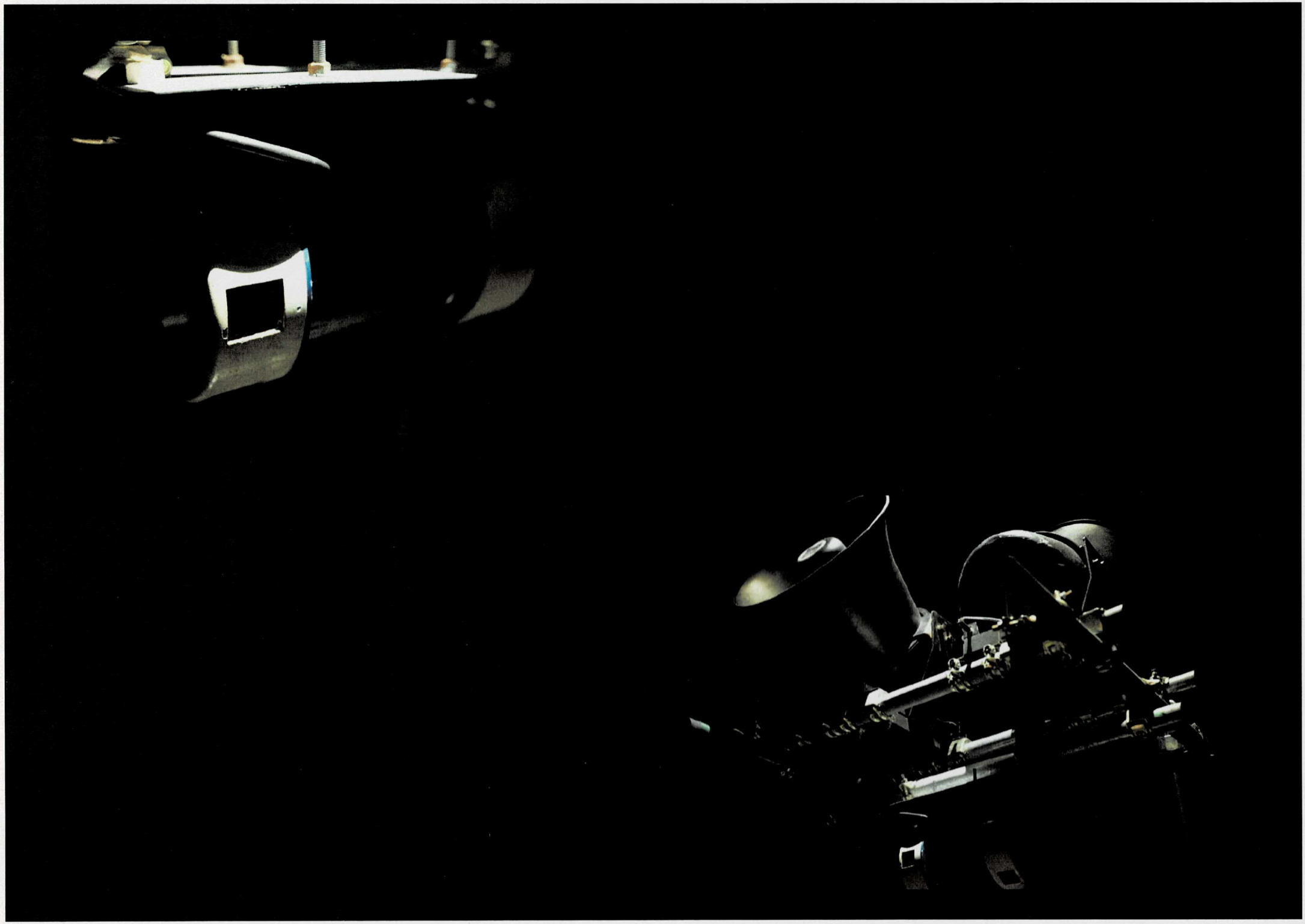
「防災無線通信 - ホーンスピーカーとサイレンのためのオペラ」

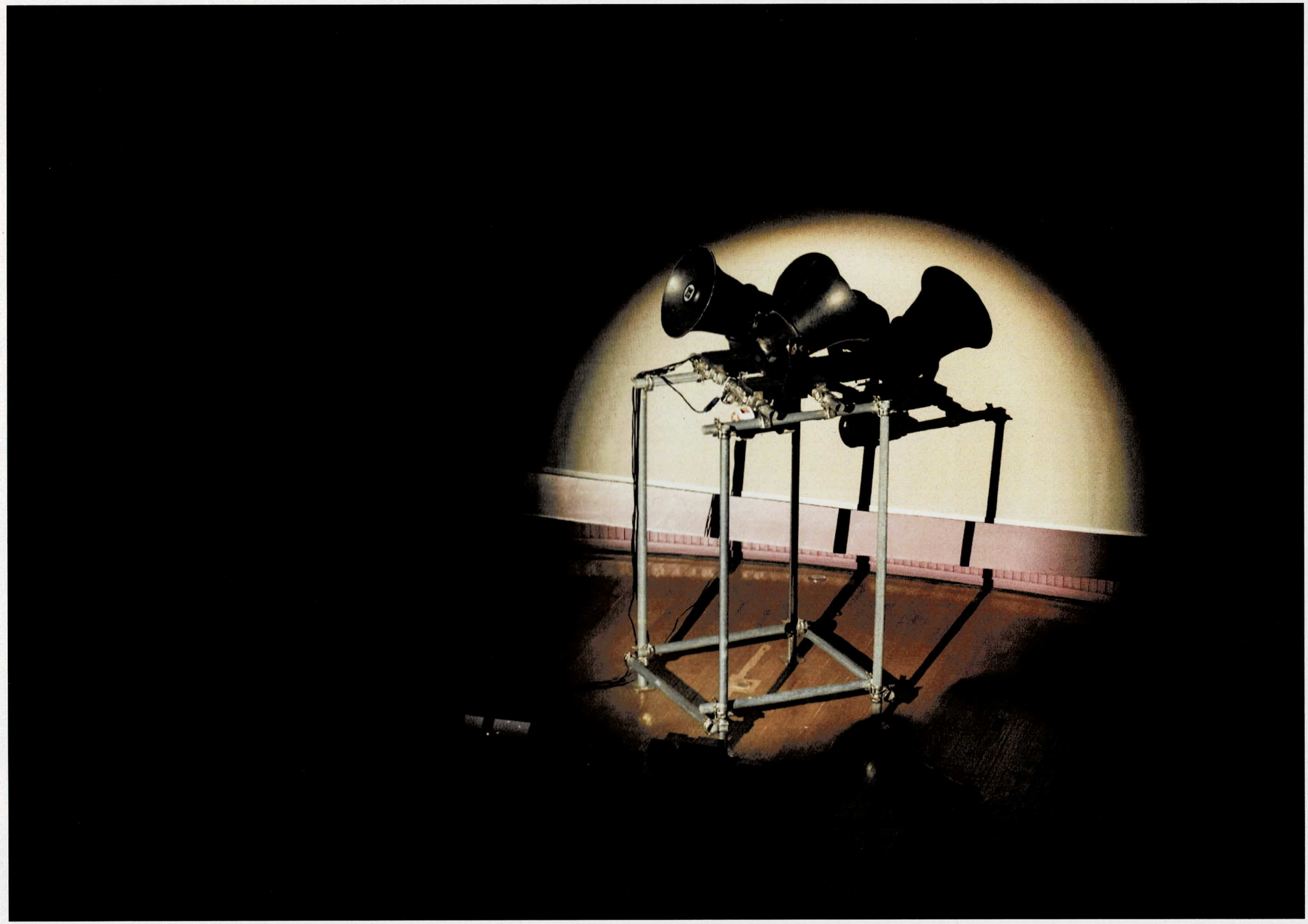
「防災無線通信 - ホーンスピーカーとサイレンのためのオペラ」はホーンスピーカー、モーターサイレンからなる行政防災無線を模した音響装置によって上演される音楽、パフォーマンス作品です。警報や時報として流されるメロディをモチーフに制作した音楽を音響装置によって放送し、上演されます。
全国1700箇所もの自治体に配備される防災無線、その多くが普段は時報を鳴らす目的で使用されています。ドヴォルザークのラルゴに代表される郷愁を誘う時報音楽の数々は、日本特有の情景を作るものの一つであるといえるでしょう。同時にそうした時報音楽が、いつか来る災害時の警報の予備として流されています。そのような背景からは音楽やシステムが災害を待っている状態にあるとも言えるでしょう。
私たちは日々、時報を聞きながら、いつかくる災害を恐れ、時に過去の災害を思い出し、郷愁の中で共同体を営んでいます。防災無線から流される爆音を許容する人々の姿と、そこに感じ取ってしまう郷愁は、否応なく一体化する都市共同体の力と、日本的な都市のありようが現れているといえるでしょう。本作ではそうした状況を誇張的に引用しながら、警報や時報などのメロディ、そして"防災"というフィクションによって、劇場に仮初の共同体を生み出し、かつてあったこと、これから起こることを再生します。

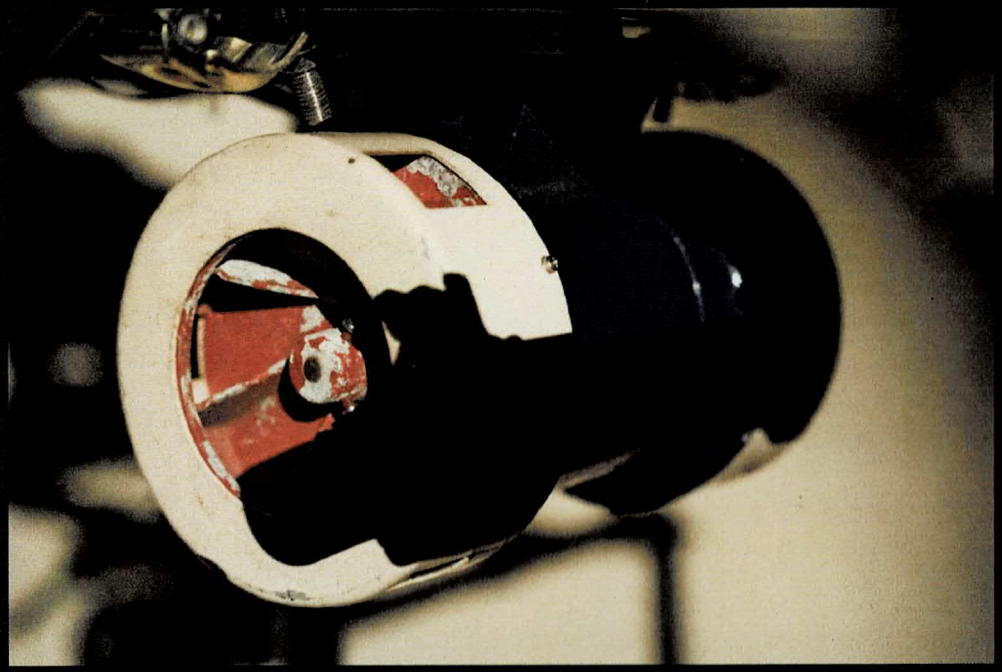
クレジット
｜演出｜永田風薫
｜声｜黄遥、永田武
｜設営｜桒原幹治、森山舜、田中小太郎、齋藤千春
｜記録撮影｜田中くるみ
｜受付｜うしお鶏、桒原幹治
｜フライヤーデザイン｜佐藤瞭太郎
｜校正｜下川晴葵
｜主催｜永田風薫
｜協力｜東京藝術大学大学院映像研究科、青柳菜摘
｜取材協力｜伊賀市管財課、ヤマハ株式会社、永田武

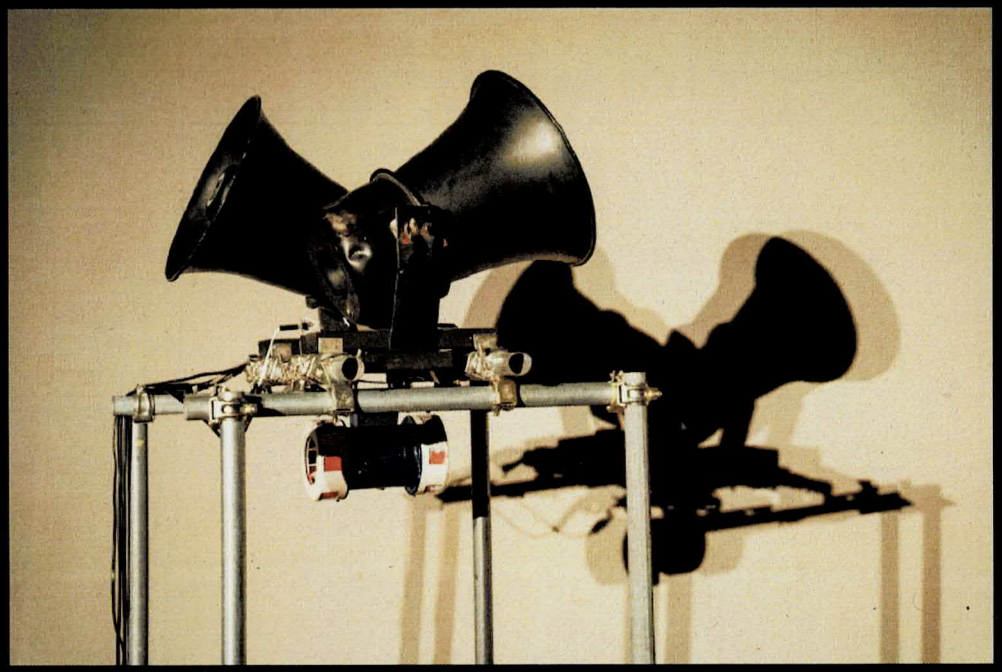
引用
吉本隆明,「海はかはらぬ色で」(詩),『 吉本隆明全集〈1〉 1941-1948 』,晶文社,2016
Antonin Dvorak ,「"Largo" from Symphony No. 9, "From the New World" 」(音楽) , 1893
山田耕筰 , 北原白秋 ,「この道」(音楽) , 1927
草川信 , 北原白秋 ,「ゆりかごのうた」(音楽) , 1921

映像 ; https://youtu.be/FqBBWLQp5T8 (一部抜粋)
https://youtu.be/yf-nkDs8ZDc (フル)



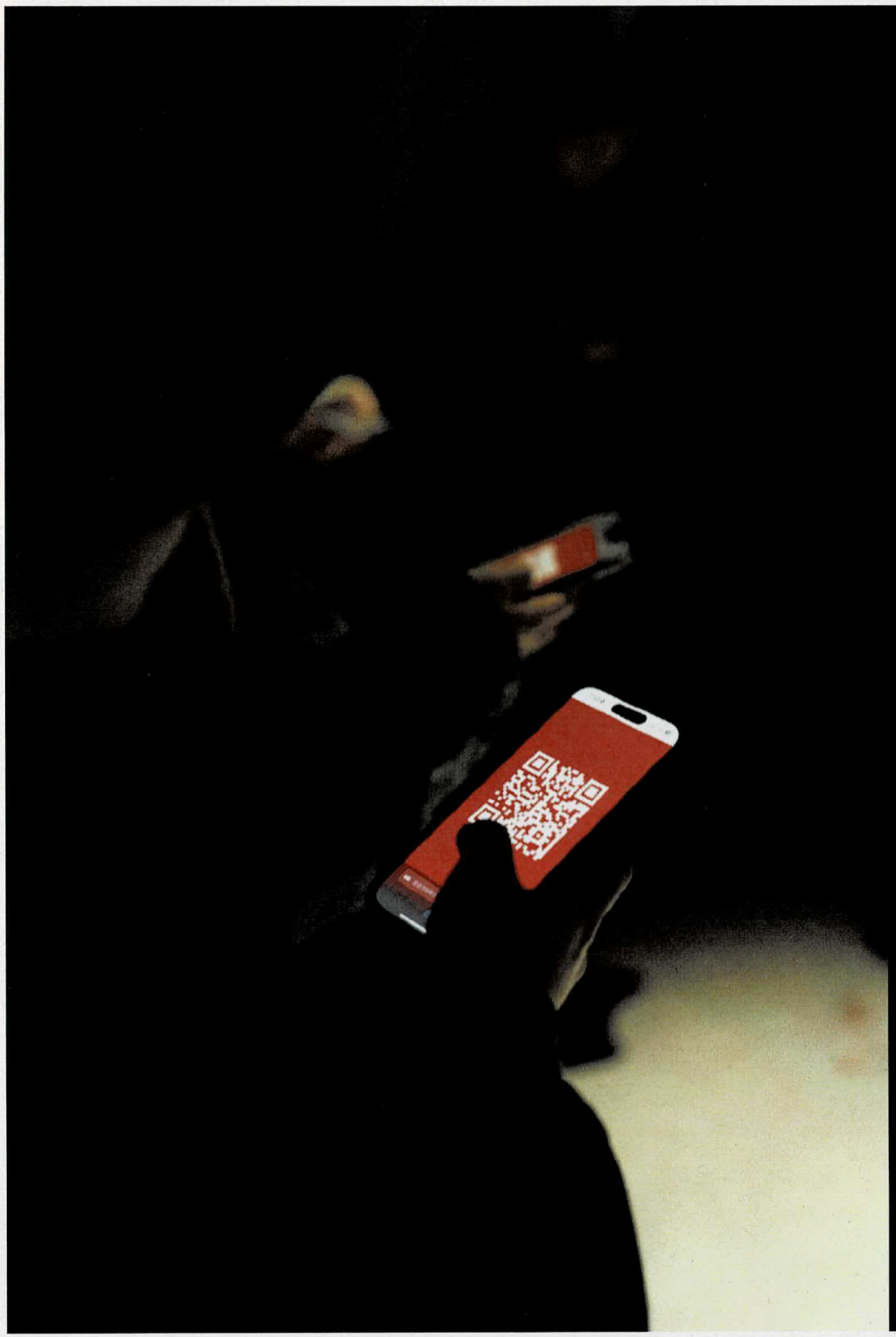






私たちは同じ夢を見ている。 (2024)

YAMAHA

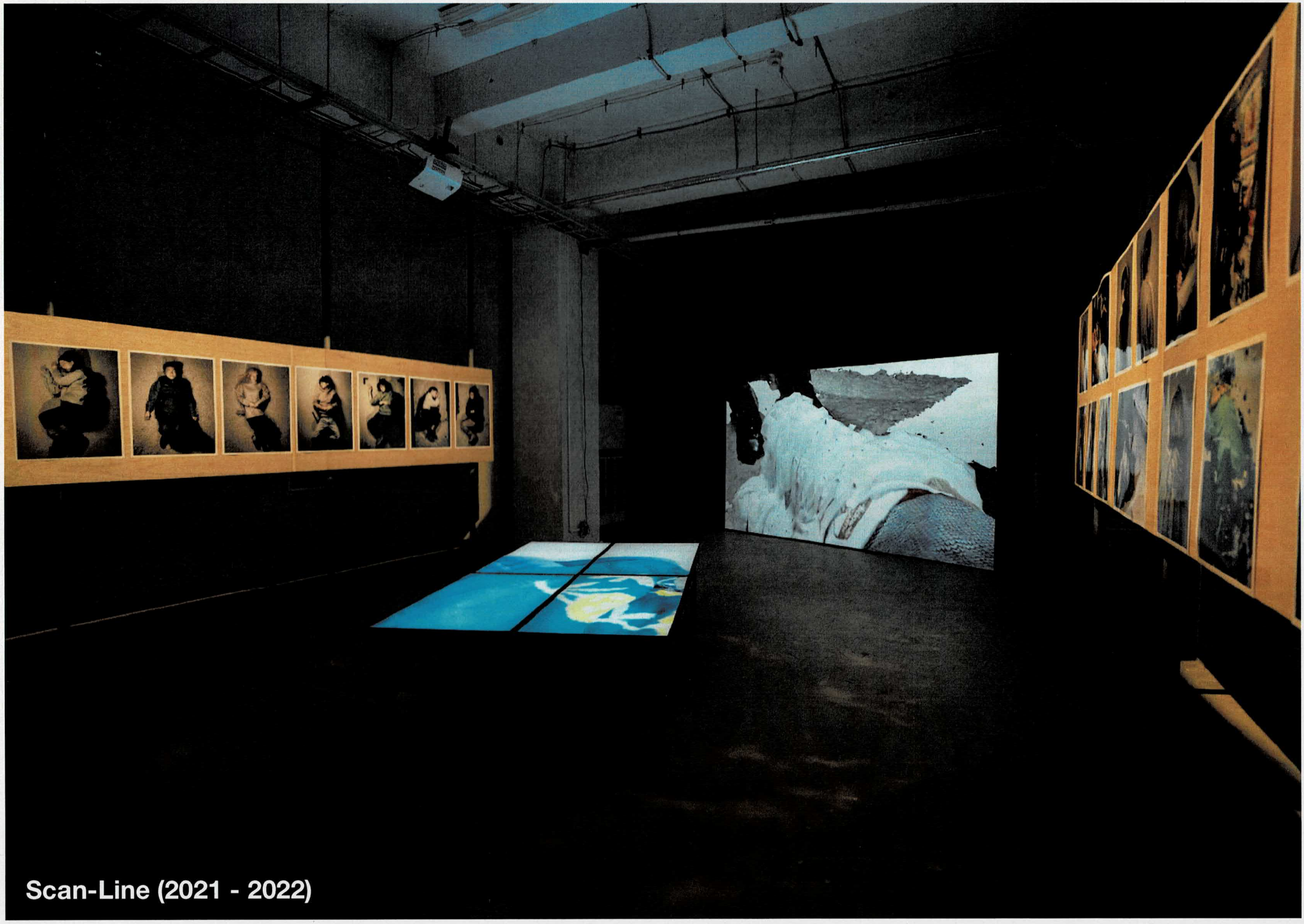


『私たちは同じ夢を見ている』~ サウンドインスタレーション

『私たちは同じ夢を見ている』は鑑賞者のスマートフォンを利用したサウンドインスタレーション作品です。
会場には改造された電気オルガン、スピーカー、QRコードが置かれています。スピーカーとオルガンからは通奏低音を基調とした伴奏が演奏されています。鑑賞者がスマートフォンでQRコードを読み取ると、Jアラートの警報音が主題として引用された歌が流れ始め、同じページにリンクされたQRコードが表示されます。そうして歌が鑑賞者たちに伝播していくことで、歌は会場内で合唱に変化していきます。鑑賞者たちがスマートフォンを通して合唱に参加していくことで、次第に会場内にはテンポラリーな共同体が生まれていきます。それは、私たちが国家と呼ぶものの姿と重なっていきます。

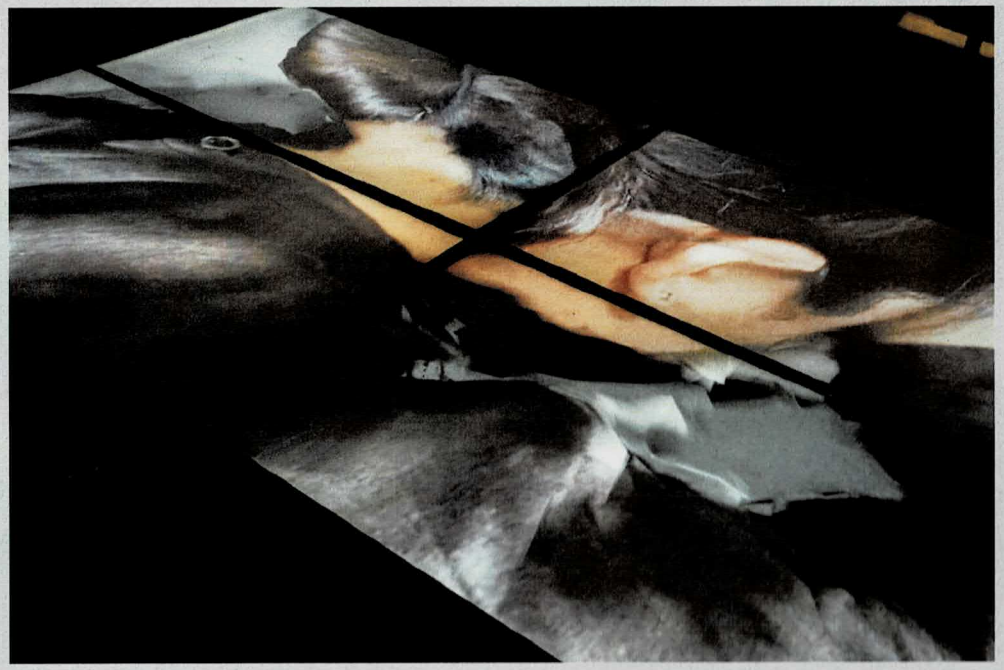
クレジット
声：黄遥

映像：https://www.youtube.com/watch?v=cGA8dMTSp6w



Scan-Line (2021 - 2022)

Scan Line - 写真 , 映像インスタレーション

3Dフォトグラメトリを利用したポートレート写真群と映像作品。測量術として知られる3Dフォトグラメトリを利用しながら、対象を平面的に、表面をなぞるように撮影した。さまざまなスキャニング技術は我々の生活に深く入り込み、シミュレーションは現実を抹殺していく。現実は、人間の目によってではなく、世界を撫でるように眺める走査線によって構築されていく。

映像 : https://www.youtube.com/watch?v=-PvaGmlrf70